

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	商学部	身分	教授
氏名	久保 文克		
NAME	Fumikatsu Kubo		

1. 研究課題

（和文）医薬品業界の後発企業効果に関する経営史的研究
ー鎮咳去痰剤市場と抗炎症剤市場を中心にー

（英文）Business Historical Research on Late-comer Effect in Pharmaceutical Industry ·Cough Remedy Market and Anti-inflammatory Agent Market-

2. 研究期間

2年間（2020・2021年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word程度）

（和文）

本研究の事例研究の対象は、医薬品業界の鎮咳去痰剤と抗炎症剤の2つの市場であるが、市場参入からトップ逆転までに要した年数は3年と21年と大きく異なっていたものの、マーケットシェアが横ばいである停滞期を除いた年数は抗炎症剤も2年と短く、ともに短期パターンに分類される事例であった。停滞期を除き10年以下でトップ企業を逆転する短期パターンが全体の実に81.2%を占めていた医薬品業界の典型が抗炎症剤の三共であり、鎮咳去痰剤の帝人は文字通りの短期パターンであったことになるが、同じ短期でもキャッチアップ開始のタイミングの違いが注目される。

そこで市場参入前に帝人が開発したヒット商品「ムコソルバン」と停滞期を脱するために三共によって開発された起爆商品「ロキソニン」を比較することによって、研究開発をめぐる後発の壁を克服する上での共通点とともに、両商品開発のタイミングが異なるという相違点をもたらした要因を考察することが重要となり、鎮痛・抗炎症・解熱作用は強く消化管障害作用は弱い鎮痛・抗炎症・解熱剤の開発を目指した内部リソース活用型の三共、ドイツのベーリンガー・インゲルハイム社との開発・技術提携を市場参入の10年前に開始した外部リソース活用型の帝人という2つの類型が確認できた。これら2類型の相違点が内部・外部いずれのリソースを活用して開発するかにあったことは言うまでもないが、こうした違いにもかかわらず共通して短期パターンに至ったプロセスが最も注目され、そのプロセスの詳細については公刊される論文において明らかにされる。

（英文）

This research focused on common and different points between cough remedy market and anti-inflammatory agent market, and make clear the different point especially, i.e. starting timing of initiator product which made latecomers catching up the leader possible. Sankyo Company utilized her own resources in contrast to cooperative research with German company by Teijin Company.